

大館市総合教育会議 会 議 録

令和6年10月開催

令和6年度 第1回大館市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和6年10月30日 水曜日
開会 15時 閉会 17時

2 会 場 市役所本庁舎 第4委員会室

3 出席委員 市長 石 田 健 佑
教育長 高 橋 善 之
委員 山 田 和 人
委員 根 田 穂美子
委員 工 藤 啓 子
委員 小笠原 正 卓

4 事 務 局 教育次長 成 田 浩 司
教育監 長 岐 公 二
教育総務課長 北 林 香 子
教育総務課長補佐 宮 崎 史 人
学校教育課長 鈴 木 明
学校教育課長補佐 柴 田 賢
学校教育課長補佐 工 藤 貴 胤
生涯学習課長 畠 山 慶 子
生涯学習課長補佐 羽 沢 秀 則
中央公民館長 外 館 志
歴史文化課長 関 智 仁
歴史文化課長補佐 篠 村 朋 子

5 協議事項 (1) 各課が取り組む重点的施策について

6 会議内容

○成田教育次長

ただいまから、令和6年度第1回大館市総合教育会議を開会いたします。

本日の本会議構成員の皆様の出席状況は、全員出席でございます。

まず、会議の公開の取り扱いについてお諮りいたします。

本日は、傍聴希望者はおりませんが、報道関係者の取材希望が1社おります。

本日の会議につきましては、非公開とすべき事項はないものと考えますので、会議を公開とし、傍聴を許可したいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

それでは、本日の会議は公開とさせていただきます。

はじめに、開会に当たりまして、当会議の招集者であります石田市長がごあいさつを申し上げます。

○石田市長

教育委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご参集いただきまして誠にありがとうございます。

また、日頃より本市の教育行政の推進にあたり、特段のご協力を賜りありがとうございます。

私は、市長就任にあたり、「子や孫世代と共に栄える大館」というキャッチフレーズを掲げて5つの柱を設定させていただきました。

その中で、「定住人口の確保・若者流出対策」と「少子化対策」という2つについて、今、高橋教育長を先頭に推進している「ふるさとキャリア教育」、これが私の目指す政策理念に通じるものと考えております。

私が市長に就任させていただいてから、いろいろな場やSNSでお話をさせていただいています。例えば、ある大学に通っている大館出身の学生から連絡をもらい、「将来は大館に戻ってまちづくりをしたい」と話してくれたり、市長に当選後、数日間道路に立たせていただいたときは、横断歩道で待っている小学生が私に向かって「新しい市長さんですか、頑張ってください」という声を掛けてもらいました。

子どもたちは市長というものに対しても、関心を持って見ているのだなと思いました。まさに「ふるさとキャリア教育」が、少しずつ花を咲かせてきているのではないかと実感しているところです。

私が学校に行ったときに言わせてもらっているのは、「自分たちでしっかり考えること」「行動すること」「対話すること」です。いろいろな話し合いを通じて、まちづくりや政策について協議させていただいています。

今日是对話の場ですので、いろいろな意見や思っていることをしっかりとぶつけ合いながら、教育からまちづくりまで、一貫してさまざまな政策を考えていきたいと思っておりますので、皆様からの忌憚(きたん)のないご意見を頂戴できればと思っています。よろしくお願いいたします。

○成田教育次長

ありがとうございました。

これより本会議の進行は、大館市総合教育会議運営要綱の規定により市長が議長と定められていることから、石田市長にお願いいたします。

○石田市長

それでは、規約に基づきまして、議長を務めさせていただきます。
円滑なご審議にご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。
次第に従いまして、順次、進めさせていただきます。
次第３番 高橋教育長より、ごあいさつをいただきます。
よろしくお願いいたします。

○高橋教育長

市長におかれましては、就任以来、超多忙の日程の中で総合教育会議を設定していただきまして、ありがとうございます。

特に１５０周年記念行事ではご出席いただき、直接子どもたちに言葉を掛けていただき、大変ありがたく思っております。

ここ数年来、全国のいろいろなところにお招きを受けて、ふるさとキャリア教育のお話をさせていただく機会がありますが、その話の最後に言っているフレーズがあります。それは「権力や財力があれば一時的に人を動かすことができる。しかし、人を変える力はない。人を変える力があるのは、教育だけである」です。

教育が健全に機能していくならば、いずれ社会も時代も変えることができるとお話をさせてもらっています。これは、全国で頑張っている教育関係者を鼓舞する言葉であります。

教育の社会的な役割というのは、これではないかと思います。果たすべき使命といってもいいと思います。教育はその未来のために、その基礎、基盤を作るとというのが教育の社会的使命だと思っています。

先ほど、市長がお話した「子や孫世代と共に栄える大館」は、まさにふるさとキャリア教育で目指してきた少数精鋭のまち大館と非常に重なってまいりますし、幸いのあるまちを作りたいということも重なってまいります。別の言葉を借りると消滅可能性都市からの脱却でありますし、持続可能なまち大館を作るという観点から言っても、基礎を作るものはふるさとキャリア教育であるし、その働きをもって大館の未来に貢献できるものと考えております。

これが基本的スタンスでありますので、よろしくお願いいたします。

○石田市長

ありがとうございました。

次に、４番の協議事項ですが、協議に入ります前に、事務局から発言を求められていますので許可します。

○成田教育次長

議事の進行は議長である市長が行うとされておりますが、市長、教育長、教育委員の皆様には十分議論していただくため、事務局が進行し皆様に協議をお願いしたいと考

えておりますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

○石田市長

では、これより進行は事務局をお願いいたします。

○成田教育次長

それでは、暫時進行は事務局が務めさせていただきます。

なお、本日の終了は5時とさせていただきます。

ご協力をお願いいたします。

それでは、「各課が取り組む重点的施策について」をご説明申し上げます。

始めに教育委員会の重点施策を高橋教育長から「大館ふるさとキャリア教育戦略の重点」についてご説明をお願いします。

(令和7年度「大館ふるさとキャリア教育」戦略の重点について、高橋教育長が説明)

○高橋教育長

そもそも、ふるさとキャリア教育は何のためにやったのかを始めに説明します。

15年前になりますが、私がこの職に就いたときに人口減少は目に見えて始まっていました。当時、大館には何もないということを言う大人たちがたくさんいました。

私は、人口が減少するから地域社会が衰退するのではなく、子どもたちや若者たちに希望を語れないようなまちだから衰退するのだと考えました。消滅可能性都市を脱却するためには、まずは人材の育成とそれに伴う希望の創出を行わなければならないと考えました。

自立の気概と能力を備えた、または、共感的協働力を備えた未来大館市民の育成、この1点に焦点を絞って14年間、私が教育委員の皆様や学校関係者、地域の方々も巻き込んで進めてまいりました。

地域の方々というのは、人材育成なので人材育成は学校教育だけでは完結できません。地域の方々のお力を借りて「大館盆地を学び舎に、市民一人一人を先生に」というコンセプトで進めてまいりました。

14年という年数は、当時小学校1年生だった子どもたちが、18歳になって社会にデビューしていて、ふるさとキャリア教育世代がこれからもデビューしてくる。このことが一番の実績だと思います。

子どもたちがいろいろな活動をしたり、地域と関わることによって、現在では「大館に何もない」と言う大人はほとんど見かけなくなりました。たぶん希望が芽生えて、それが広がり始めたのだと思います。

それから、ふるさとキャリア教育自体もクオリティが高くなってきて、それを学びたいと全国から多数の教育関係者や議員の視察も増えてきています。そのうえで組み立てたのが、資料にある目指すところであります。

未来大館市民の育成は、人口が減っても一人一人の気概があって、能力が高くて、大館の子どもたちの特徴である共感的協働力（チームワーク）があれば、人口が6万人、5万人になっても、一人一人がバラバラな30万人都市には負けない思いがあります。

「イーハトーブ連邦」は、交流人口を増やすことを考えていましたが、それよりも今までの日本の教育が転換点にきています。これまでは国がレールを敷いて、それを各都道府県や市町村が、その路線に沿って動いてきたわけですが、これからの教育は各地方都市が逆に実践と成果をもって、全国の教育をリードしていくという時代に入ってきたと考えています。そういう意味で大館が果たす役割は大きいと思っています。

課題としては、少子化自体は止めることができない状態ですので、いずれは学校再編です。小学校については、複式学級になっても学力は維持できる状態でしたが、更に減った場合は学校の維持自体が難しくなります。

今まで、統廃合で5校ほど減らしたことがありますが、統廃合したとたんに地域が一気に衰弱するのを目の当たりにしてきました。そういう兼ね合いも考えながら、この問題について対処していかなければならないと考えています。

2つ目の課題は、校舎設備の老朽化対策です。築50年以上の校舎がたくさんあり、統廃合の問題に絡みます。長寿命化というやり方で対処していきたいと考えています。

3つ目の課題は、不登校児童生徒の増加を抑制していくことです。大館だけの問題ではなく、全国的に極めて増加しており社会問題化すると思います。大館としては、予防措置とか初期対応、不登校になってもリスタートできる体制づくりなどで対処してまいりたいと考えています。

○成田教育次長

ただ今のテーマについて協議したいと思います。ご意見等ある方は挙手をお願いします。

○小笠原委員

3つの課題については、昨年度生まれた子どもたちが250人、一昔前の小学校の1学年分ということを考えると、避けては通れない問題だと思います。見方がいろいろあって、消極的な問題と見えるかもしれませんが、だからこそ攻めの戦略として、どこの地区にどういう学校があって、そこにコミュニティができ上がる。コミュニティができ上がるということは、教育だけではなく、そこにどういう街ができ上がるかまで考えていかなければならないと思います。

不登校についてもいろいろな方と話をするのですが、学校に行きたくない子はいないと思います。十人十色、いろいろな理由で行けなくなる。表現が不適切かもしれませんが、人数が減ってきたからこそ、我々大人がマンパワーを割いてしっかり対応してあげることで、リスタートできる子どもたちが1人でも多くできればいいと思います。

やはり、市長部局と教育委員会がしっかりと手を取り合って、進めていっていただきたいと思います。

○工藤委員

この取り組みが一層充実、発展してきていると感じますし、教育長の言葉を借りれば、「何もない」ということから変わって、大館の価値を実感している子どもたちが増えてきていると思っています。その子どもたちに未来の大館を担ってほしいと切に思っています。

改めて思うのは、ふるさとキャリア教育の取り組みにより、より一層大事にしていかなければならないのは、将来、何になるかということだけではなく、何になってもどう生きるかがすごく大事で、そこに焦点を当てていくと大館で暮らして生きていく子どもたちが増えていくのかなと感じています。どう生きるかというのは、いろいろな意味で地域との関りや人とのつながりです。改めて、どう生きるかに焦点を当てていけばいいのかなと思っています。

課題の3つ目について、不登校児童生徒の増加は、いろいろな個性を持った子どもたちがいますし、得手不得手があるので、そこを理解していきたいと思います。

学校に行きたくないという子どもたちはいないと思うし、言葉を変えると、どの子どもも学びたいと思っているのだけれど、もしかしたら、その学び方に個性があるのかもしれないと思っています。そこを掘り下げていくと解決につながっていくのかなと考えています。

○根田委員

私なりに、大館市の子どもたちを長く見てきたつもりです。やはり、子どもたちは変わりました。十数年前と比べて、子どもたちは自分の意思をしっかりと伝えることができるようになり、大館に対する思いを子どもたちなりに持つようになったと思います。

その子どもたちが社会へ飛び立っていき始めているところですが、十数年前であれば、大館というところに対して「何もない」という意識だったかもしれませんが、ふるさとキャリア教育を受けた子どもたちは、大館を思う心、ふるさとに学んできた思いを心の中にしっかりと持って成長しています。

これから、子どもたちは少なくなっていくばかりですが、子どもたちがチームワークやその大切さを学んだわけですので、必ずや大館を背負って、ふるさとのために何かしら思いを馳せて、力になってくれるのではと期待しているところです。

また、学校の統廃合はやむを得ない状態になるかもしれませんが、学校というところは一人一人の子どもが学ぶための大事な場所です。地域と一体となって学んでいるので地域の活力にもなっています。学校が1つなくなることによって、地域が衰退して元気がなくなるというのは目に見えていることなのですが、保護者や地域の方々もいろいろな考えがあると思います。

大きな学校でコミュニケーション能力を持たせてあげたいと思う保護者もいるかもしれませんが、その反対もいるかもしれません。統廃合に向けては丁寧に進めていかなければいけない大事な課題だと思っています。

不登校に関しては、皆様が言うように学校に行きたくない子どもはいないと思います。一人一人の子どもや家庭の事情もあると思うのですが、それを私たちは見守ってあげたい。見守ってあげることで、その子どもがいつでも学校に行きやすい体制ができればいいと思います。

難しいことだと思いますが、子どもたちがみんなと一緒にコミュニケーションを取り、チームワークをしっかりと持ちながら生きてほしいと願っています。

○山田委員

教育長が冒頭に「権力や財力では人は変わらない、教育のみが人を変える力がある」と話されましたが、私は、そういう力が社会を持続的に発展する力になると信じています。その信念がある意味認められた本が、今年のノーベル経済学賞を取った本の共著者であるダロン・アセモグルとジェームス・A・ロビンソンの『国家はなぜ衰退するのか』です。

権力が集中される社会は長続きしないということを言いました。そして、権力が分散された民主主義社会は、経済的に成長を持続できるということを歴史的に証明されました。これがノーベル経済学賞を取った意義は大きいと思います。その先端を大館は自ら作り、歩んでいることを私は誇りに思っています。

教育長が15年と言いましたが、それから遡ること15年、今から30年くらい前に、私も大館JＣで教育長と同じことを考えていました。大人は、「大館は何も誇れるものはない、だから、子どもはどんどん出ていくのだろう」と。その頃、一念発起し、メンバーとともに大館に誇れるものはないのだろうか、大館の宝は何かということを探し当て、これを元に大館を発信すれば誇りをもって大館を語れるのではないかという活動を始めさせていただきました。

おかげさまで、その夢の続きを前市長が実現してくれました。その後、石田市長が形を作ってくださいのものと確信しています。

私は、子どもたちが物理的に帰ってくるのが一番大事な事だと思っています。一方、例えば、海外に行こうが、その思いが大館にあれば、必ずやその子どもたちが頭脳や知見を使って大館に貢献してくれるものと思っていますし、そういう子どもたちをこの大館から育てていると思っています。

少数精鋭のまちというのは、ある意味全国、世界から知見や知識の集まるまちになるのだと、気概や誇りをもって突き進むのだと、築き上げるものだと教育長から教わり、一緒に生きてきた気がします。

○石田市長

貴重なご意見をいただきながら、私も考えていました。

ある自治体の市長と意見交換したときに、市民から言われたことが衝撃的だったということを話されました。「教育にお金を掛け過ぎれば、どんどん頭がよくなって県外に出る方向を見てしまうから、教育にお金を掛けない方が地元に残ってくれるのではないか」という意見が多数あったそうです。

私は、それは教育の目指す方向性がおかしいのではないかと思います。例えば、お金をたくさん稼ぐことが幸せだという教育をしていけば、そのとおり勉強してたくさん資格をとって、東京に行って高い給料をもらうという方向になるのは当然だと思います。

ただ、大館がやっている教育はそうではなくて、真の豊かさとは何か、それをしっかりとふるさとキャリア教育で学んでくれているからこそ、ふるさとのため、家族のためにそういう思いが生まれてくるのではないかと思います。

教育長を筆頭に皆様が取り組んでこられた教育方針は、改めて間違っていなかったと思っています。

先ほど、昔の教育は国がレールを敷いたということを教育長が話されましたが、私の家庭は父が教育の全てで、厳しい環境に育ちました。父の教えは安定した仕事に就くことでしたが、社会人になって自分で生活するようになってから、自分の幸せや豊かさは何かを考えたときに、改めて自分の人生を見つめ直しました。レールがどうこうではなくて、一人一人が違っていいのだと、いろいろな考え方があっていいのだと実感しました。

不登校というのは、いろいろな課題がある中で学校に必ず来てもらうことは、もしかしたら正解ではないかもしれないし、家でできることもたくさんあるかもしれません。人それぞれに合った教育が必要だと感じました。

「大館には何もない」という話がありましたが、私にとっては素晴らしい最高の場所だと思っています。私は祖父と祖母に助けられて生きてきました。70歳代は大館に約1万4千人いて、去年生まれたのが230人くらいです。

大館は、おじいさん、おばあさん世代がたくさんいて、協力してくれる人がたくさんいる素晴らしいまちだと思います。だからこそ、子や孫世代と一緒に栄えるまちを作りましょうと掲げています。皆様と一緒に教育を進めていきたいと思っています。

○高橋教育長

先ほどの不登校の補足です。心的な要因による不登校が平成28年頃から全国的に、大館でも激増してきました。

ちょうどその頃、ネットゲームが子どもたちに普及した時期です。不登校の児童生徒が全てネットゲーム依存ということではないですが、不登校が増えていった部分は、かなりネットゲームの影響があると考えていいと思います。ネットゲーム依存になったから、朝起きられずに不登校になったという子もいますし、逆に不登校になってすることがないので、ネットゲームにのめり込んでいった子もいます。いずれ増えた要因としてはそこで、防がなければならないと分析しています。

今、「幼保小の架け橋プログラム」を使って保育園や子ども園の保護者の方々、妊娠しているお母さんにもネット依存の恐ろしさ、子どもたちにどう触れさせるべきかの啓発を続けています。これはいずれ効果が出ると思います。

○成田教育次長

ありがとうございます。

他にご意見等ある方は、挙手をお願いします。

○根田委員

今のネットゲームについて、「幼保小の架け橋プログラム」はとても素晴らしいと思います。数年前からやり始めて、子どもが幼児の頃から親御さんを教育していく、ネットに対する怖さを知らせていく、これを大事にしながらお願いしたいと思います。

○成田教育次長

ありがとうございました。

では、次のテーマに移ります。

現在、各課が行っている事業の現状と課題、今後の方針などについて、各課一括で説明させていただいたあと、皆様からご意見を伺いたいと思います。

それでは、最初に教育総務課がご説明させていただきます。

（「信頼と安全を築く教育環境の整備充実」について、１から２まで北林教育総務課長が説明）

（「ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化」について、１を米澤教育研究所長、２から３まで鈴木学校教育課長が説明）

（「ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援」について、１から２まで畠山生涯学習課長、３から５まで外館中央公民館長が説明）

（「郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する」について、１から３まで関歴史文化課長が説明）

○成田教育次長

以上、各課のテーマを説明いただきました。ただ今のテーマにつきまして、協議をさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

ご意見、ご質問のある方は、挙手によりご発言をお願いいたします。

○小笠原委員

9月に秋田県教育委員会が高校の再編について、説明会を大館市で開催しました。

県の教育委員会は、大館の高校を3校から2校に統合していかなければならないと決めたような感じでした。その根拠となるのは、40人学級が5クラスないと成り立たないとのことでした。

公立学校として裏付けがあるようですが、果たして大館の子どもたちの学ぶ環境が整うのかという私はそう思いません。実際に大館では1クラス40人はあまりないわけで、少人数での教育は効果を発揮していて、それは高等教育になったからといって、そう変わるわけではないと思います。何を言いたいかというと、今の子どもたちの多くが高校までは大館で学ぶという環境ができていたので、それを維持していかないことには、市長のおっしゃる定住に関して、子育てという観点からは多くの機会が除かれてしまう気がします。

ここは、大館の教育をいろいろなところでアピールすることによって、それにつながる高等教育に関しても、我々から道筋を付けていくように取り組んでいかなければならないと感じます。

それから、学校環境に関してですが、セカンドGIGA端末の整備は、前回、あまり十分ではなかった教師用の端末もあるということで大変ありがたいのですが、お願いしたいのは機器の選定です。

5年間で端末のスペックはとても上がるし、ソフトウェア、コンテンツも増えてきます。それに耐えられるようなものを導入していただきたいと思います。予算の裏付けも必要だと思うので、教育委員会と市長部局が手を取り合って、国からの交付金活用をお願いしたいです。

それから、「学校の壁を越えた学習スタイルの推進」について、矢立小学校を見てきたのですが、近くにある花岡小学校と常にオンラインでつないで試験的に実施しているそうです。ただ、そこで意見が上がったのは、それを組むためにいろいろなトラブルがあり、業者に手伝ってもらいながら苦労してやっているとのことでしたので、そういうところにもお金のバックアップがあればいいと感じました。

大館にはたくさんの財産があります。それを見たくて、知りたくてという人が全国にはたくさんいると思うのです。キラーコンテンツで言えば「大館教育」ほど、アピールできるコンテンツはないと思いますし、定住の促進に使えないかと思います。

全国には、自分の子どもたちが受ける義務教育に疑問を持っている人がたくさんいると思います。「大館に何か光があるのではないか」と教育のために引っ越してくることがあるかもしれません。そういうアピールもぜひお願いします。

○工藤委員

教育環境の整備については、毎年財源が厳しい中で配慮していただいて、ありがたいことだと思っています。

昨今は、防犯や省エネなど対応しなければならないことがたくさんあり、大変だと

と思いますが、やはり子どもたちの安心安全が第一ですので、頑張っていただきたいと思います。だとなれば、統廃合の問題も絡んできますし、財源の有効活用も考えていかなければならないと思います。

待機児童については、資料を見ると子どもの数は減っているのですが、待機児童は増えている、働く親が増えて家に親がいないという状況の子どもが増えているということ。将来的には4年生から6年生の子どもたちも見てもらいたいと思います。

スポーツ少年団になったことで、以前は学校で部活動ができたのに、家に帰らなければいけないとか、事情により地域のスポーツ少年団に入れないなど、やりたいけれど家にいる子どももいるだろうし、家にいることによってゲーム依存になるということもあると思います。

保護者からすれば、家に1人でいることが心配だと思いますし、将来的には全学年を受け入れる方向で考えていってほしいと思います。

○根田委員

鳥潟会館の保存と活用ということで、その価値が認められ、国の名勝として指定されたということはありがたいことです。スタッフの皆様に感謝申し上げます。さらに家屋も国の重要文化財の指定に向けて進めばいいと思います。

ニホンザリガニは、保存に向けて専門家の協力を得ながら継続して残してほしいと願っています。

待機児童の問題に関しては、支援員の確保が課題であると、補充に苦慮しているということで、児童数の減少も見据えた形で取り組んでいきたいと書かれていますが、子どもが少なくなるといっても子ども一人一人にとっては大事なことで、ぜひ取り組んでほしいと願います。

老人コミュニティづくりへの支援と公民館連携事業については、老人クラブの皆様に対して生涯学習課がいろいろ取り組んでいることを耳にしていますが、老壮大学の名称について皆様の考えはどうか気になっています。

防犯については、子どもたちの安全が第一です。防犯カメラはそれぞれの学校に十分に設置されているものなのか、最低限の数なのか、増やしてほしいとか、保護者からの意見などはないものかが気になっています。

耐震対策の工事ですが、対策した建物はどれくらい耐えられるものか、子どもたちが避難できる時間を確保できるものか、避難範囲を子どもたちへ話しているのか、先生たちの意識はどうか気になっているところです。

○成田教育次長

ありがとうございました。

根田委員からの質問について、回答いたします。

○ 外館館長

老壮大学について、老壮となっているのは中央公民館だけです。他ではロイヤル学級、いきいき学級、健康教室などと地区ごとに名前を付けています。老壮大学について運営委員と話しましたが、今までやってきた名前なので変えたくないというのが本音でしたが、話し合いはしています。

○ 根田委員

分かりました。

私が知っている中で、老壮大学という名称は、若い方も参加しやすくするために名前を変えている市町村もあります。提案はしましたが、皆様が親しみを持っているのであればそれでいいと思います。

○ 北林教育総務課長

防犯カメラについては、以前から設置している学校がありますが、年数が古く、映像の解像度も低いことから設置するところです。設置場所としては、学校の規模により台数は異なりますが、昇降口を中心に人が出入りする場所とし、職員室にモニターを置いて監視できるようにするものです。

耐震について、今回の比内中学校の工事は30年ほど前に改修した外壁が浮いてきており、地震が発生した際に危険であることから外壁を補強するものです。

○ 根田委員

子どもたちの安全が第一ですので、よろしくお願いします。

○ 成田教育次長

阪神淡路大震災の事例を受けて全国的に広がった工事で、震度7に耐えられる設計になっています。

○ 山田委員

先ほど教育長が、「大人は、このまちに何があるということをやっと気づき始めた」と言いました。それは、ふるさとキャリア教育の1つの到達点なのかも知れません。子どもたちのみならず、大人たちにとってもそういう効果があったとお話くださいました。

この先のことですが、大人たちはこのまちにわくわくしているのだろうか、と私は問いたいです。このわくわくするきっかけは教育委員会にたくさんあります。まず1点は教育、たくさんの先生たちが25自治体から来ます。わくわくするから研修に来る。自治体の議員さんも来る。そういう大人たちがわくわくするものがあって、それを発信できるのが教育委員会のコンテンツです。

特に歴史文化課で、学びたいときに誰でも、いつでも、どこでも学べることになっ

ていると、もっとわくわくしてくると思います。そういうことを教育委員会が仕掛けていくことは十分あると思います。

知的好奇心が湧いてくるようなまちづくりのきっかけは、もしかしたら教育委員会が仕掛けていけることであろうし、それと観光課が結び付くと、もっと太い絆、太い面になって、大館がなおさら交流人口を増やし、定住人口を増やし、子どもたちが出ていく防波堤になっていくのではないかと期待しています。

そういう意味では、まちを紹介できる人材を育成して、そういうところに私たちも一緒に学び、このまちの良さを発信していく。日本語だけでなく、英語やフランス語、中国語などもある、そういうコンテンツがたくさん溢れているというまちにできれば、いろいろな形で情報発信ができるし、市長の考える交流人口、定住人口、そして、子どもたちが出ていかないまちづくりのきっかけになるのではないかと期待しています。

そういう観点からも、庁内横断的な取り組みとして、市長を含め皆様に期待いたします。

もう1点、各委員から子どもたちの安全安心が第一だという話がありますが、私もそう思っています。特に子どもたちの食ですが、常々細心の注意を払いながらメンテナンスをしっかりとやっていく必要があるのだろうと思っています。

施設が老朽化すればするほど、更新ができなければできないほどメンテナンスをしっかりとる。マンパワーで補っていくしかないのだろうと思います。その辺を今後とも善処していただけるようお願いします。

○小笠原委員

子どもサミットで市長に一度、子どもたちのディスカッションを見てもらったと記憶していますが、彼らはこれから大館のことをすごく考えていて、私たち大人が子どもの頃に「大館には何もない」と言っていたけれど、もしかしたらこれから作っていかうとする人材でもあるのかなと思います。実際に鳳鳴高校生が大館に何か作ろうかなとか、いろいろなところから話が出てきているのを私も目にしています。

そこで、子どもサミットの彼らに予算を与えて、彼らがその予算で何か大館に作ってしまおうとか、守りでなく攻めの取り組みも斬新でいいのかなと思いました。

それから、市長にご就任してから子どもたちの前でお話してくださることをたくさん拝見しました。すごくありがたいことだと思います。お考えであると思いますが、これからも、子どもたちの前で子どもたちのやる気スイッチを押していただくような機会をいただけたらと思います。

○成田教育次長

皆様から、さまざまなご意見、ご提案をいただきました。最後に市長から総括として、ご意見をいただきたいと思います。

市長よろしく願いいたします。

○石田市長

皆様から、ご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございます。

いろいろなお話があった中で、山田委員からの意見、「次のステージは、大人がわくわくしているかどうか重要なのだ」という話は非常に共感するところがあります。

やはり、子どもたちはどうしても親の背中を見て生きるものだと思いますので、まずは、親が大人がわくわくしているかどうか本当に大事だと思います。

また、小笠原委員から意見があった、「大館の素晴らしい教育を定住の促進につなげられるようもっとアピールできるのではないか」については、私も同感です。市長の立場としてもピーアールしていきたいと思っています。

政策協議のときも職員へお伝えしましたが、私が発信することでプラスになることがあれば、市長をどんどん使ってほしいと思います。そういう企画も考えていただいて、ピーアールに向けて動きたいと思っております。

大館のニホンザリガニについては資源ですので、生物系のユーチューバーとコラボレーションするなど、情報発信やいろいろなことができるのではないかと考えています。

子どもサミットとの連携については、ここに子どもの意見があってもいいなと思いました。実際に現場で教育を受けている側からの意見もあったら面白いと思います。

高校生が何かを作る計画は、いろいろな議論があると思いますが、こういう活動を自発的にやるということは素晴らしいことなので、こういう活動も後押ししていきたい。将来、自分たちが住むまち、働くまちのことを小中学校の段階で一緒に考えていくことも重要ではないかと私も考えています。

気になったところで、児童クラブの待機児童に関しては、支援員の確保が課題とありますが、課題はあるものの、閉鎖になるべき地保育所に勤められている保育士の方々を確保する可能性もあるのではないかと思います。コミュニケーションを密に取っていただきながら進めていただきたいと思います。

今日はいろいろな意見があった中で、大館の教育は素晴らしいし、未来は非常に明るい実感しているところです。

引き続き、皆様のご意見を頂戴しながら、一緒にコミュニケーションを取りながら、進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○成田教育次長

市長、各委員の皆様から、さまざまなご意見、ご提案をいただき、ありがとうございました。

この辺で、協議事項については終了させていただきたいと思います。

それでは、議事進行を議長に戻します。

議長よろしくお願いいたします。

○石田市長

再度、議事を進行します。

事務局の各課においては、本日の総合教育会議での協議内容を踏まえ、示された方向性に基づき、今一度 内容を精査され、施策の実施に取り組んでいただくよう、お願いします。

ここで議長の職を解かせていただきます。

円滑なご審議にご協力くださいます、ありがとうございました。

○成田教育次長

本日は、皆様からの貴重なご意見、活発な協議、ありがとうございました。

本日の会議で協議された内容、意見、提案、示された方向性を踏まえ、精査した上で今後の施策を実行してまいります。

以上をもって、令和6年度第1回大館市総合教育会議を閉会いたします。

本日は、ありがとうございました。